

令和7年度 大阪市立大和川中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	79	51	44	5.1	7.4
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	454
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	84	59.9	43.2	49.9	39.8	49.8	5.4	5.6	9.8	8.5	5.5
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

令和7年度 大阪市立大和川中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【全国学力・学習状況調査】

『国語』

平均正答率は、全国・大阪府と比較して3.3ポイント、1.0ポイント下回った。思考力・判断力・表現力等の書くことは、大阪府より1.1ポイント上回った。授業内において漢字や文章を書くことを毎時間行っている成果がでた。しかし、読むことは、全国より4.1ポイント、大阪府より3.0ポイント下回っていた。授業内だけではなく朝読書などを通じて読む力の定着を図っていく。

『数学』

平均正答率は、全国・大阪府と比較して4.3ポイント、3.0ポイント下回った。領域別では、「图形」、「関数」において、全国・大阪府の平均正答率と比較しても下回っているが、差はあまりなく、領域における知識・技能は定着している。しかし、思考・判断・表現は平均正答率は大きく下回っており応用問題を少し取り入れた授業を行うなどし定着を図っていく。

『理科』

スコアが全国・大阪府と比較して49ポイント、35ポイント下回った。また、基準の500より46ポイント下回った。どの領域においても、知識・技能が大きく下回っており、授業での基礎・基本の定着を図っていく。

【3年生チャレンジテスト】

『国語』

府平均点との差は大阪府と比較して-4.3ポイントであった。

1年次からの積み重ねの成果が出ており、漢字や文法などの知識問題は平均を超えることはできていないが、平均に近い結果が出ている。また、記述式の問題は大阪府の平均を超えることができているため、入試に向けてレベル別に応じた多展開授業を行う。また、個別に合わせた方法で学び直しの機会を作り、学力の向上につなげていきたい。

『社会』

平均点は、大阪府と比較して、8.0ポイント下回った。地理的分野・歴史的分野ともに資料から情報を読み取り問題に答えるといった力が低く、今後、ICT等を活用し、資料を用いた授業を多く取り入れ情報活用力・読解力の向上を図っていく。

『数学』

平均点は、大阪府と比較して4.0ポイント下回った。

图形分野での角度を求めたりする問題の回答率は高かった。しかし、データの活用の分野の正答率が低く、データを読み取る力や専門用語の知識不足が見られた。ICT等を活用し、データの活用能力の向上を図っていく。

『理科』

平均点は、大阪府と比較して6.2ポイント下回った。

すべての領域で基本的な問題の正答率がとても低いため授業等においてインプットやアウトプットの機械を増やし、知識の定着を図っていく。

『英語』

学習指導要領の領域別平均点、評価の観点別平均点、問題形式別平均点のすべてにおいて、大阪府平均を下回った。著しく下回る項目は見られないが、読む・書く・聞くのすべてにおいて基礎力が不足していることがわかる。特に書く項目では、無回答率が高かった。授業の構成や課題の内容などを工夫し、基礎力をつけさせたい。

また、書く活動を増やす。

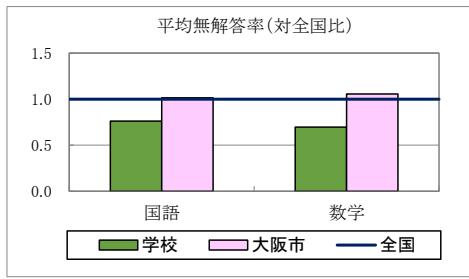
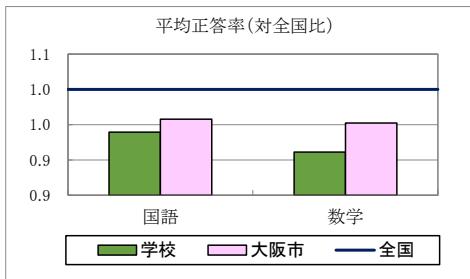
令和7年度 大阪市立大和川中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【全 体】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	51	44
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

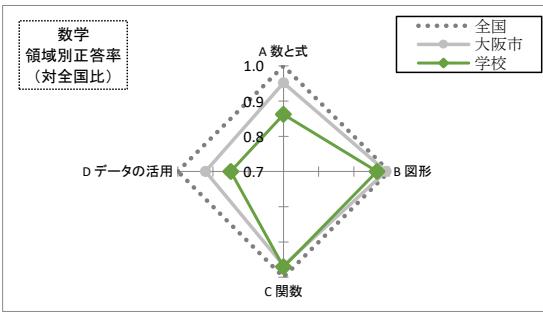
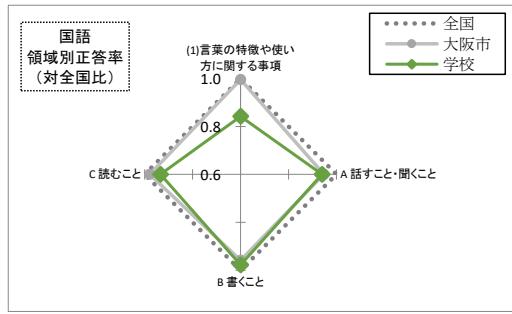
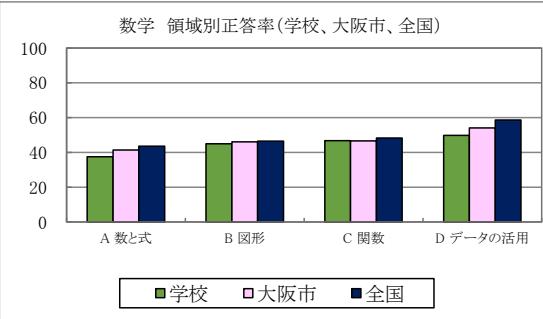
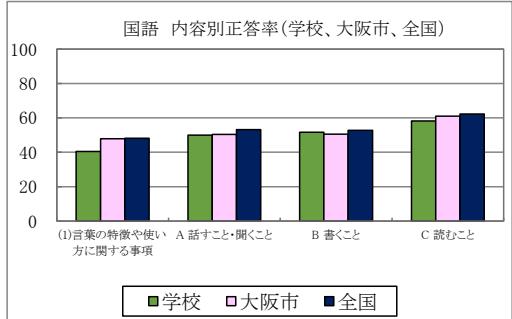
平均無解答率(%)	
国語	数学
5.1	7.4
6.8	11.2
6.7	10.6



【国 語】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	40.5	47.9	48.1
(2)情報の扱い方にに関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	50.0	50.4	53.2
B 書くこと	5	51.6	50.6	52.8
C 読むこと	3	58.2	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	37.5	41.4	43.5
B 図形	4	44.9	46.1	46.5
C 関数	3	46.8	46.6	48.2
D データの活用	3	49.8	54.0	58.6

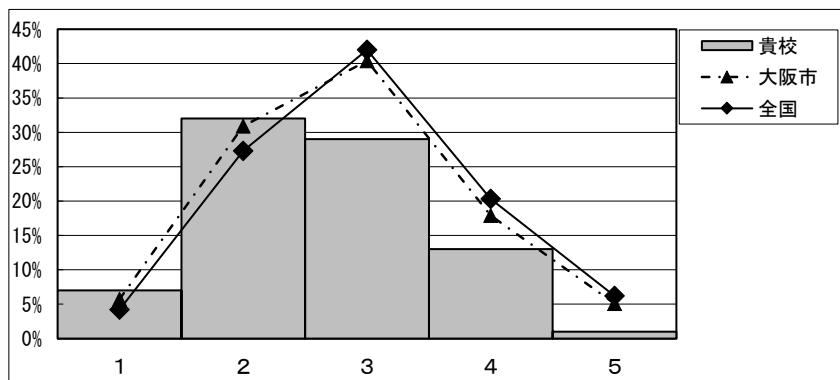
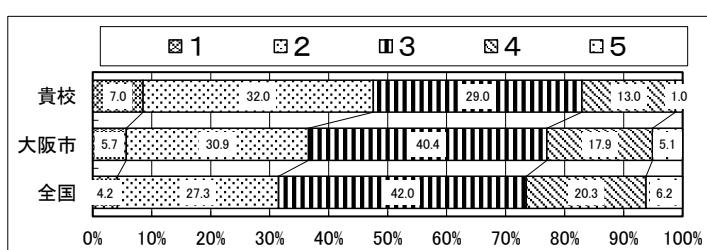


令和7年度 大阪市立大和川中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	454
大阪市	489
全国	503



令和7年度 大阪市立大和川中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

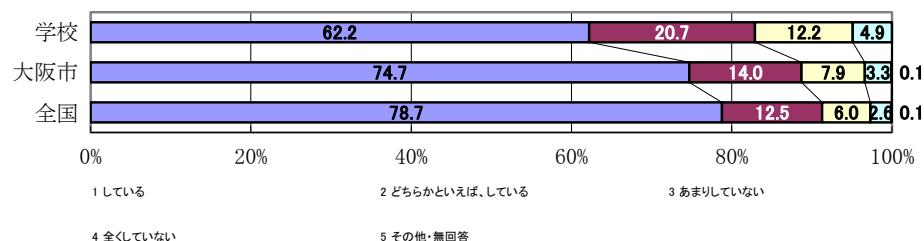
生徒質問より

■ 1 ■ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8

質問番号
質問事項

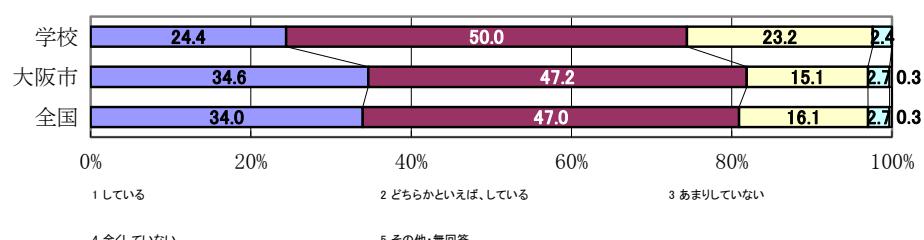
1

朝食を毎日食べていますか



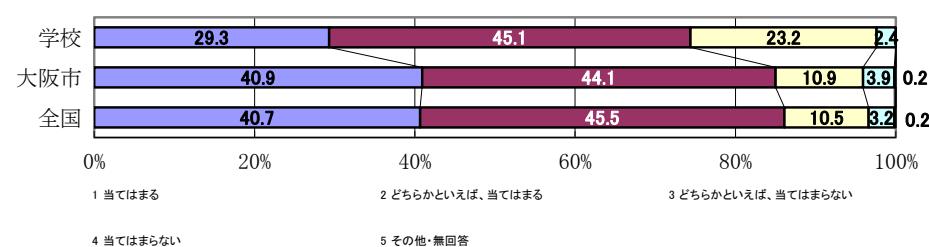
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



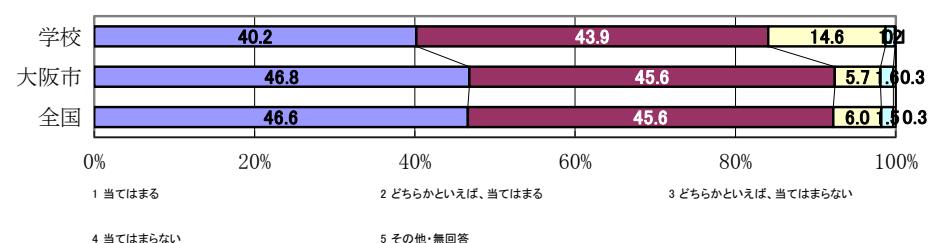
5

自分には、よいところがあると思いますか



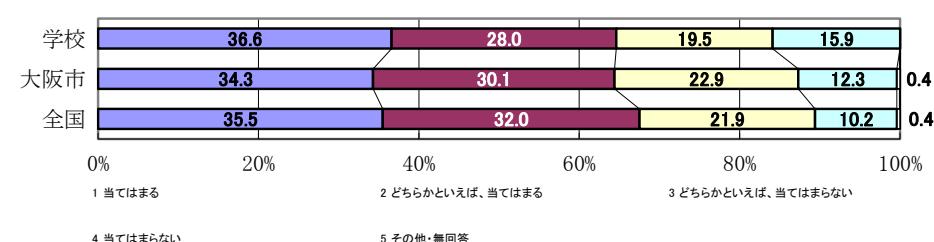
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



7

将来の夢や目標を持っていますか



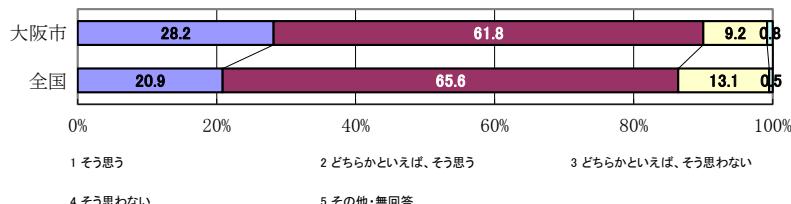
令和7年度 大阪市立大和川中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

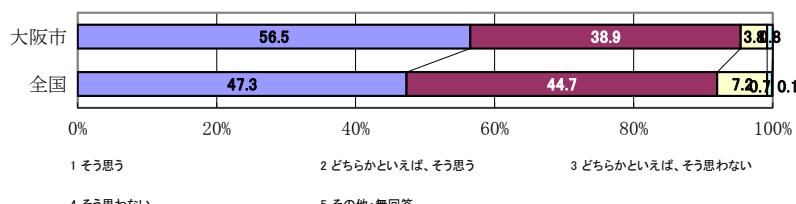
質問番号
質問事項
7
調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



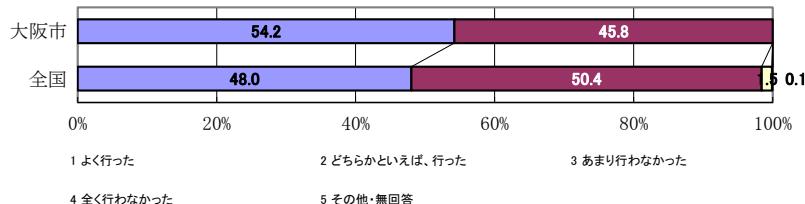
8
調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



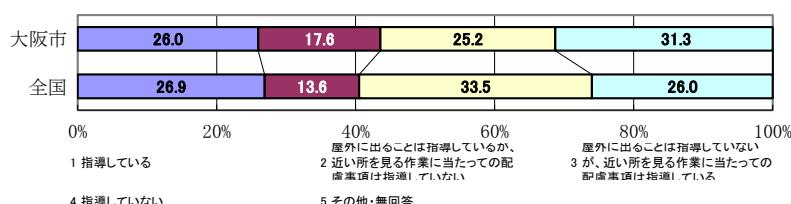
9
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

学校 「よく行った」を選択



10
近況の予防の一環として、学校の休み時間(昼休みを含む)や放課後などの時間(部活動の朝練・放課後練習を含む)に屋外に出ることや、読書や電子機器の使用などの近い所を見る作業に当たっての配慮事項(対象から30cm以上目を離す 30分に1回以上目を

学校 「指導していない」を選択



11
前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

学校 「月に数回程度行った」を選択

